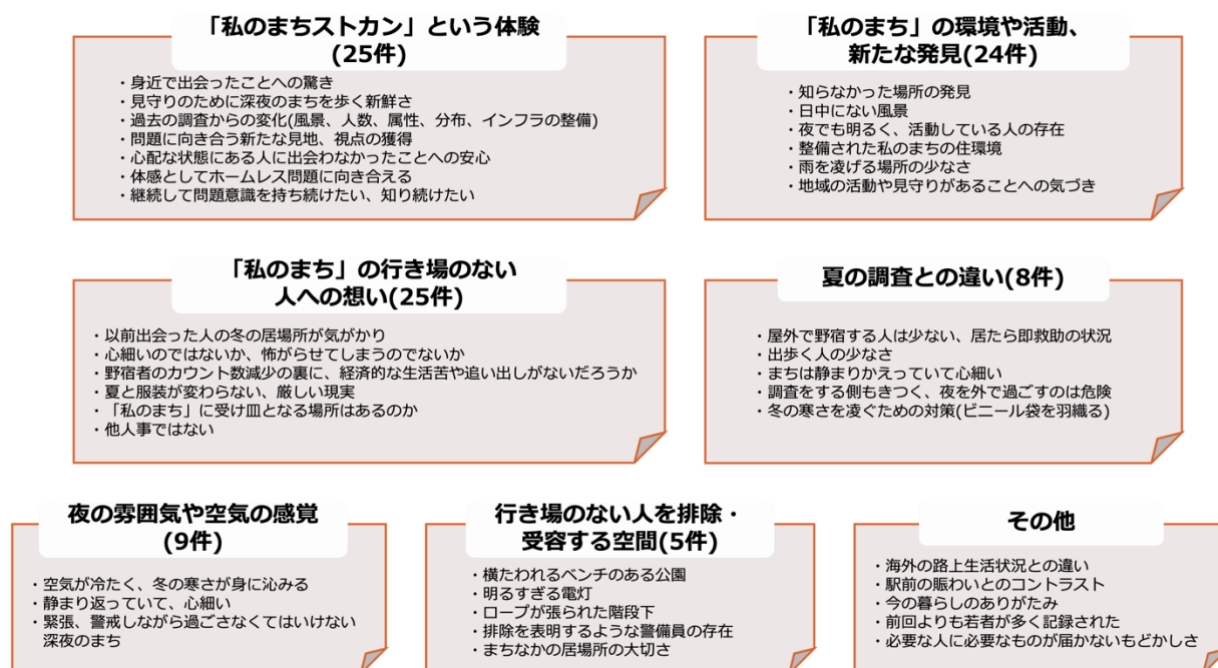


◆参加者の感想



【図】参加者の感想（項目まとめ）

今冬の「私のまちストカン」の参加者のみなさんに感想をお聞きし、65名から回答をお寄せいただきました。

感想全体を分析し類似するものをまとめ、大きく分けて7つの分類に整理しました。図にある件数は、それぞれの項目に該当することが述べられた感想の数です。

今回は初めて参加してくださった方が多かったことから、「『私のまちストカン』という体験」を経た感想が多く見られました。同時に、「『私のまち』の行き場のない人に対する想い」や「『私のまち』の環境や活動、新たな発見」への言及が多かったことから、参加者のみなさんにとって「私のまちストカン」は行き場のない人へ思いをめぐらせるとともに、「私のまち」を新たな側面から見直す/再発見する機会となっていると言えるでしょう。

また、「私のまちストカン」では初めてとなる冬の開催となり、以前からストカンに参加して下さっている方からは夏の調査との違いについての報告をいただきました。夏に比べ深夜のまちを出歩く人は少なく参加者自身も心細い、氷点下の地域においては屋外で野宿しているのを見かけたら救助を要する、という状況下で歩いたことで、今回のテーマである『誰も寝ていないことを祈る』というフレーズを意識する瞬間が何度もあったのではないのでしょうか。

以下、感想の一部をご紹介します。

○「私のまちストカン」という体験

「想像していたよりあたたかく歩くことができた、しかし、一晩でも外で過ごすことはできない。『ホームレスの人たちは選んでその生活をしている』と思っているひとにこそ、ストリートカウントの体験してほしいと思った。誘って同行してくれた友人二人も、今回のストリートカウントが理論ではなく体感としてホームレス問題を一緒に考えるきっかけになったようで良かった。」

(民間企業・女性)

「街の在り方を見つめ直す機会になりました。同行者とは、ホームレスの方の居場所創造について話しました。どんどん進んでいく都市開発の一方で、取り残されていく人たちに意識を向けるきっかけになりました。」(学生・女性)

○「私のまち」の環境や活動、新たな発見

「今回の調査でホームレスの方と出会うことはなかった。その代わり通っていた小学校や最近通ってなかった道へ行き、新しいお店が出来ていること、昔と変わらない場所があることを知れた。また安全な街だと思っていたが、『この辺りは1人で歩くの怖いな、』など夜の街を歩くことで分かることもあった。」(学生・男性)

○「私のまち」の行き場のない人に対する想い

「寒空の下で、きっと一人で歩いていたら寂しく夜道の怖さを感じていたかもしれませんが、3人で歩くだけでこれらの感情が軽減されたのが分かりました。それでも閉鎖的な公園を歩くときは3人いても少し怖いと感じました。(中略)もしかしたら、公園に一人で佇むその人のほうが周りの世界は怖く見えてしまうのではないのでしょうか。今回のストカンのサブタイトルにもある通り、歩いている途中で『誰も寝ていないことを祈る』という言葉は何度も思い出しました。」(学生・女性)

「寒さの中で夜を過ごすことの難しさと、それでも外で過ごしている人がいるということに、それがやむを得ないことなのか、それとも自ら選択していることなのか、疑問に感じました。」(非営利団体・女性)

○夏の調査との違い

「今回は初めての冬の開催ということでしたが、『寒い夜の街で寝ている人がいるかもしれない』ということを思うと、調査をしている立場の自分も心細くなる気持ちがありました。空気の冷たさ、街の静けさなど、夏とは違う光景の中を自分の足で歩くのはストカンを何回やっても毎度違った感覚があるなと気付かされました。」(民間企業・男性)

※上記の感想は本人からの掲載許可を得ています。また、一部個人情報に関わる文言や特定の場所に関わる文言は削除しました。